部長短信

部長　山口　博司

少し視野を広めて最近の周りの学生を見ていると，果たして何を考え、何に興味を持って生きているのかが、よく判らないような人が多くなってきたように感じます。恐らく、これらの人は、言葉として発しないということも考えられますが、多くは何も考えず、何にも興味を持たない、もしくは持ちたくないような人ではないかと思うことがあります。逆な見方をすれば、何も考えず、何にも興味を持てなくても、そのまま生きてはいける、という現在の若者の持つ考え方でもあると見ることもできます。このような風潮、現象といってもよい､が続くことは決して良いことではなく、社会またはミクロな組織の持続性を考えるうえでも決して良いものとは思いません。一方、航空部の部員はというと、航空部というそれこそ興味の対象を強く持ち、これを真剣に考える素材がはっきりとしている分けですから、組織的には十分に持続可能な組織であることには間違いありません。ただ、持続可能な組織だけでは、発展は見込めません。ここに、これからの航空部の抱える問題があるように思われます。部員が一丸となって新たな挑戦を行うことが重要であります。

かつて航空部のＸプロジェクトとして何度か鳥人間コンテスト参加を果たしたことがあります。この挑戦は寝食を共にし、苦労を分かち合い、目標に挑む所にあります。この意味でも、鳥人間参加プロジェクトは，部員の連帯感、一体感をはぐくむ大変良い試みであったと考えます。当然、競技スポーツとしてのグライダーは，これ航空部の基本でありますし、競技に優れた戦績を残すことの基本的な方向は，これまでとまったく変わりありません。しかし、Ｘプロジェクトもまた、同じ挑戦でもあり、大いに効果があったと思います。多様性は，これからのクラブのあり方でもあるように思います。事実､これを境に部員の数も増え、各々が新しい志を持つようになってきたように思っています。戦績も向上してまいりました。いわゆる、部全体が上げ潮に乗ってきたようです。ぜひまた、このような機会を捉えて、さらなる挑戦と部の飛躍を期待しています。

昨年はグライダーに関わる事故が頻発しました。速やかに、我がクラブの安全性につき総点検するように指示をいたしました。ただし、最も重要なことは、慣れによる気の緩みです。いつも事故と隣り合わせにあることの認識と、平素の意識で安全を共に守って頂きたいと思います。諸兄に置かれましても、この点も含め、ご指導のほどお願い申し上げます。

今年度も、航空部への皆様方の暖かいご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。